



ポラリス



新 座 市 立 東 野 小 学 校

通級指導教室ふらねっとルーム

令和7年度 第4号 9月1日



長かった夏休みも終わり、2学期が始まりました。通常モードへの切り替えには子供だけでなく大人も時間がかかりますね。この時期、子供は年齢より幼いふるまいを見せたり、「首が痛い」など身体の症状を訴えたりすることもあります。そうかと思えば、声をかけても「別に」「何でもない」と返ってくることもあるでしょう。そばで見ていると、心配でもどかしさを感じ、子供のネガティブな発言や気持ちを「そんなことはないと思うよ」と否定したくなるのは当然です。心がけたいのは、理由を聞いたり諭したりすることよりも「今はそう思っているんだね」「そんな感じなんだね」というように一旦受け止めることかと思います。「よくわからない、何となく困って」いても否定されなかったという経験の積み重ねは、自分は大切にされているという感情と、青年期までにつけたい力とされる「他者に相談できるコミュニケーション能力」や「自分の感情に気付いて言葉にできる力」の土台となるはずです。また、不安定な様子が見られるときは、褒め言葉や励ましより家族からの「ありがとう」といった感謝、承認の言葉がけの方が入りやすいときもあります。特別なことはしなくても、ちょっとした工夫で家の中に余裕が生まれたらラッキー、ぐらいの気持ちで過ごしていけたらと思います。

外で変化のあるときは、家では休息を優先することが基本です。そして、私達大人もちょっとした運動や、昔好きだったことをやってみるなど、できる範囲で小さな楽しみを見つけることは、気分の切り替えだけでなく、子供たちにとって「自分を労わる、大切にすること」のモデルになります。ふらねっとルームでもリラックスやストレス解消の仕方等を取り上げてまいります。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。

9月の予定

在籍校の行事やそのための練習、学級活動などがある場合はそちらを優先してください。

9月3日(水) 2学期通級指導開始

9月24日(水) 担任出張のため、午後の指導はお休み



少し先の話ですが…

先日、中学校の先生と話す機会があり、その際、埼玉県公立高校の入試についての話題になりました。ご存じの方も多いと思いますが、令和9年度の入試から、変更される点がいくつかあるようです。大きな変更として、調査書には生徒会活動や部活動といった特別活動の記録や、その他の資格の取得状況等の記録の記載欄や、出席日数の記載欄がなくなります(学習の記録の評価は記載されます)。それらの内容や、高校入学後に取り組んでみたいこと等は、受検する生徒全員が提出する自己評価資料に記し、面接で伝えていく、という流れになるようです。自己評価資料は評価の対象になりません。そして、県の提示する資料からは話し方の流暢さといったことより「自分の言葉で表現する」ことを求められていることが伺えます。

「大変そう」という印象を受けますが、私はこれこそ通級指導教室で行っている学びの延長にあることではないかと嬉しくなりました。通級では、自己理解や自己表現の学習の一つとして「自分研究所」と称した活動を行っています。「困っていること＝悪いこと」と捉えることのないよう、あなたが困っていることは発見のスタート、研究の対象で、後輩や仲間にとって役に立つということを強調しています。(森村美和子「特別な支援が必要な子たちの『自分研究』のススメ」より)この活動を通して、肯定的な自己理解を育み、主体的に自分の課題に取り組んでいけることを目指しています。すぐに変化や効果が見られることではありません。でも、「自分はこうしたい」「これがやりやすい」と感じたことを表出していく活動を積むことの意義が改めて実感できたひとときでした。

(入試については、埼玉県立総合教育センターのホームページに詳しい情報が載っています。)

